



CHARTERED IN
NOVEMBER 21, 1955

THE SERVICE CLUB OF YMCA
THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S

2016年2月

札幌クラブ

THE Y'S MEN'S CLUB OF SAPPORO

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
T.064-0811
011(561)5217

TOF (Time of Fast) 断食のとき

— 主 題 —

国際会長	「信念のあるミッション」
アジア会長	「愛を持って奉仕しよう」
東日本区理事	「原点に立って、未来へステップ」
北海道部部长	「地元愛」
札幌クラブ会長	「YMCAと共に」

Wichian Boonmaporjorn(タイ)
Edward K. Ong (シンガポール)
渡辺 隆 (甲府)
伏木 康 (札幌)
宮崎 善昭 (札幌)

札幌クラブ役員

会 長	宮崎 善昭
書 記	中田 千鶴
会 計	秋葉 聡志
直前会長	伏木 康

今月の聖句

それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、
ほかの人にもそのようにしなさい。
マタイによる福音書 7章 12節

巻頭言

YMCAで働くことの意味

北海道YMCA 総主事

秋葉 聡志



去る1月27日～28日の1泊2日、東日本地区YMCAスタッフ研修会が、東京YMCA高尾わくわくビレッジで開催された。この研修は、東日本地区YMCA総主事会が主催し、比較的若手のスタッフを対象に、YMCA理解とキリスト教理解をテーマにしている。今回が11回目となり、東日本地区Yからスタッフ21名、総主事8名が参加した。

ないと思っている。私も何か気の利いた答えを与えなければ総主事らしくない、総主事の権威を失墜させると思い、他の総主事のコメントは上の空で一生懸命考えた。

思考実験の末、与えられた答えは、以外にも「YMCAで働くことの意味など考える必要はない」に行き着いた。そして大要こんな話をした。

研修内容は礼拝（3回実施、総主事が奨励）、講師を招いての様々なテーマでのキリスト教理解、総主事のリラートークなどで構成されており、この総主事との直接的なやりとりであるリラートークが目玉になっている。テーマが事業的なことでなく、YMCA理解とキリスト教理解に特化して若手スタッフと総主事が一緒に研修をするという機会はこの研修以外にはない。そこがポイントであり、故に各総主事には出席義務があるのである。

「私たちは、それぞれにいろいろなきっかけでYMCAに入って仕事をしているが、それは初めは全く自分中心の都合であり、自分の側からしかYMCAを見ていない。自分の側からしか物事を見ていない時、人にはいろいろな不満や苦しみが生じる。YMCAの起源を考える時、YMCAはキリスト教信仰から生まれた団体であり、YMCAミッションに照らしたとき、YMCAのすべてのプログラムが神の業である。どんな領域かに関わらず、私たちの働きが神の業であることにまず立ちたい。

今回のリラートークのテーマは、「YMCAで働くことの意味」で、特に事前の総主事間での打合せもなく、それぞれがぶっつけ本番で本音を語るというものであった。

私たちの働きが神の業であるとしたとき、そこで働くことの意味は、私たちが意味づけるのではなく、すでに神様から与えられている。だから、YMCAで働くことの意味を考える必要はないのである。考えるべきは、私たちの働きが神の御心、神様の意志にかなうのかどうかだ。この問いに答えるには、聖書に示されているように、キリストの言葉を聞かなければならない。時間は必要だが、御言葉を聞き続けることにより、神の意志を尋ねる態度が生まれ、自分の中に育った御言葉によって、いつか信仰を与えられる。そして、その時、YMCAのすべての仕事が神の業であることが実感できる。」

私は、この研修会のテーマがYMCA理解とキリスト教理解ということだったので、ネタとしては、いくつか自分の体験談を用意していたが、「YMCAで働くことの意味」について語るには不適當だったので、その場で「YMCAで働くことの意味」を考えた。聞いている研修生は、きっと何がしかの具体的な答えを欲しがっているのだろう。そして、みんなこのテーマをまじめに突き詰めなければなら

俗なる人間社会は問題・課題だらけ、しかし、イエスがこの世に来たように、そこにしか聖なるものが宿るところはない。イエスの生き方に倣う私たちは、御言葉を聞き続ける者でありたいと改めて感じた研修であった。

2016年1月例会

在籍会員 11名

例会出席 8名

メネット 1名

メーキアツプ 0名

出席報告

ゲスト 1名

ビジター 11名

出席者合計 21名

出席率 73%

札幌ワイズメンズクラブ 2015年2月例会

日時：2016年2月16日（火） 18:30～20:30
会場：クラッセホテル札幌 2F 会議室
札幌市中央区南1条西7丁目1-2
Tel. 011-281-3800

会費：1,200円

プログラム

18:00 食事

18:30

- | | | | |
|---|---------------|---------|-------|
| | | 司会 | 秋葉 聡志 |
| ① | 開会点鐘 | 札幌クラブ会長 | 宮崎 善昭 |
| ② | ワイズソング、ワイズの信条 | | 全員 |
| ③ | 聖句 | | 中田 靖泰 |
| ④ | 会長あいさつ | 会長 | 宮崎 善昭 |
| ⑤ | 誕生日 | | |

1月5日 伏木 恵美子メネット

結婚記念日
なし



⑦ 卓話 「札幌市議奮戦記」

札幌市議会議員
篠田 江里子

札幌のため
頑張ると!



- ⑧ 諸報告
- ⑨ YMCA 報告
- ⑨ 今月の歌

「カチューシャ」

- ⑩ 閉会点鐘

会長 宮崎 善昭



札幌クラブ・札幌北クラブ新春合同例会

日時：2016年1月11日（月）18:30～20:30
場所：KKR ホテル札幌 2F レストラン「マイヨール」
参加者；

ゲスト： 栄 潤子（卓話者）

十勝クラブ：

池田正勝、山田敏明、山本雅之

札幌北クラブ：

小谷和雄、工藤啓司、熊 敏彦、高杉純二
中原准一、森熊治郎、義村小夜子

札幌クラブ：

秋葉聡志、秋葉康子、川上由美子、
佐藤雅一、柴田伸俊、中田靖泰、中田千鶴、
伏木 康、宮崎善昭

札幌・札幌北クラブ 2016年新春合同例会は初めて都心のKKRホテル札幌で開催しました。十勝クラブ会長山田敏明君、次期北海道部部長山本雅之君、池田正勝直前会長の3君がはるばる十勝から雪路を駆けつけて3クラブ合同例会になりました。

卓話は日本基督教団引退牧師の栄潤子さんでした。神学校卒業ほやほやの新婚青年牧師夫妻が1953年の日本復帰直後の奄美大島で開拓伝道に従事するというお話でした。室町時代にザビエルの影響を受けたとはいえ今はキリスト教とまったく無縁となって土着の民間信仰に頼っている孤島での布教の苦労話は感銘深いものでした。（p.3 参照）

北クラブ恒例のチャリティオークションは名物の森会員の司会で盛会でした。現、次期部長、会長の挨拶、各クラブの活動報告、現・次期役員抱負などの後、最大のサプライズは宮崎札幌クラブ会長のマジック披露でした。「誰でもちょっと練習すれば出来るんです」などと言いながら、一本の紐を切ったり、またもとの一本にしたり、2つの輪をくぐらせたり、秋葉新総主事夫人に選ばせたカードを当てたり、コップを使っての鮮やかな手さばきを披露し、観客を魅了しました。北海道部のマジックでは十勝クラブの池田直前会長の名人芸が有名です。お二人ともYMCAの子どもたちを楽しませるために始めたそうです。来年の合同例会では、十勝・札幌のマジック対決を見ることが出来るかもしれません。

定刻散会。薄野での2次会、3次会は行われなかったようです。

何故この聖句を

中田 靖泰

「山上の垂訓」の中でも一番有名で愛されている聖句の一つです。「黄金律 Golden Rule」と呼ばれています。しかし、この考えは決してキリスト教の専売特許ではなく、古今東西、すべての人間社会、宗教で言われていることです。他の宗教の黄金律を見てください。

孔子：「己の欲せざるところ、他に施すことなかれ」（論語 卷八衛霊公第十五）

ユダヤ教：「自分が嫌なことは、他の誰にもしてはならない」（トビト記）、

ヒンズー教「人が他人からしてもらいたくないと

思ういかなることも他人にしてはいけない」（マハーバーラタ）、

イスラム教「自分が人から危害を受けたくなければ、誰にも危害を加えないことである。」（ムハンマドの遺言）

仏教 仏教には厳密に対応する句はありませんが、釈迦は最後の説教で「修行僧たちよ。多くの人の利益のために働け」と言っています。

キリスト教の黄金律の特徴は他の宗教が「～すべからず」と「禁止型」であるのに対し「～せよ」と「能動的実践型」であることです。

奄美大島開拓伝道記

日本基督教団引退牧師

栄 潤子

1953年、米軍の占領下にあった沖縄と奄美群島の施政権が日本に返還されました。日本基督教団は奄美大島への開拓伝道を願い、資金も用意し、準備を整えたのですが、行く牧師がいませんでした。神学校は出たけれど吃音のためあってもなかなか赴任先がなかなか決まらなかった私たち夫婦に「奄美へ」というお誘いがありました。「経験を積んだ練達の牧師でさえ難しい開拓伝道を若い未経験の私たちなどが出来るはずがない」というためらいはありましたが、恩師の勧め、励ましもあり、神の召命を信じて奄美へ降り立ちました。



子供たちが集まってきました。そこで子供たちは本土の教会から贈られた古雑誌を読み、賛美歌を歌いました。子供たちの親や兄弟たちも次第に私たちの活動に興味をもって集まってくるようになりました。

1549年のフランススコ・ザビエルは鹿児島に上陸しています。その影響は奄美大島にも及んでいたようですが、今ではほとんど残っていませんでした。他の教派のプロテスタントが年に一度奄美大島を訪れて移動伝道を行い、1日の布教で何人かに洗礼を施していました。その方たちを私たちが群れに加わってくださった事などもあり、次第に教会堂建築の機運が高まってきました。

奄美大島の瀬戸内町は奄美諸島第2のまし、人口9,000ですが、教会はもちろん、キリスト教徒は一人もおらず、まったくゼロからのスタートでした。

しかし、来島して2年目、瀬戸内町は街の実に3分の2が消失するという未曾有の大火に見舞われました。私たちが借りていた家は幸いにも焼け残り、ここに信徒たちが集まってきました。

写真館の2階を借りて二人で住み始めました。まず土曜の夜、街頭放送で街の人々に礼拝への参加を呼びかけたのですが、来てくれる人は一人もいません。

来島5年後、信徒は20数人に増え、それに他教派の12人も加わってくれました。その日のためにあらかじめ購入しておいた土地の上に遂に念願の会堂を建てることができました。

そこで、子供たちのためにCS(教会学校)を始めました。他に子供たちのための施設など全然ありませんでしたから、このCSは大人気でした。はだしで多くの

(文責： 中田靖泰)

奄美大島 九州の南、沖縄本島の間に位置している。独特の歴史、自然、文化、言語、産業を持っている。

奄美大島の宗教事情： 島内には各集落ごとに複数の神社が見られるが、仏教寺院は極めて少ない。ただし、神社のほとんどは、江戸時代（薩摩藩政時代）頃に土着の信仰から移行し設立された比較的新しいものである。島北部を中心にカトリック教会が多く見られ、明治以降に設立されている。人口に対するカトリック信者の割合が、国内でも信者の多いとされる長崎県以上と言われる。現在の多くの墓形式は本土と同じであり、沖縄県の亀甲墓は見られない。ただし「城間トフル墓群」に代表されるトフルヤムヤと呼ばれる亀甲墓の前時代形式の墓所が存在する（南西諸島の墓制の北限と言われる）。これは隆起サンゴ礁が形成する崖に横穴を掘り、風葬したり、厨子甕などに遺骨を入れて保管するもの。隆起した砂丘に十数基の横穴墓があり、400年以上前に構築されて以来そのすべてがほぼ完全な形で残り、うち9基が現役の墓として使われている。公的行事を取り仕切るノロは存在しなくなったが、巫や巫女と比較されるユタによる民俗信仰は残存している。（ウィキペディア）



YMCA ニュース

担当主事 佐藤 雅一

①ピンクシャツデー

いじめのない社会を目指し、YMCAはピンクシャツデーの取り組みを始めました。社会全体がイジメに対して高い意識をもち、イジメの被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者」にならないことが、イジメられている子どもを救うことになると私たちは考えます。

「ピンクシャツデー」とは？

2007年カナダ、ピンクのシャツを着て登校した少年がゲイだとイジメられました。それを見た2人の学生が50枚のピンクのシャツを友人・知人に配り翌日に登校をします。学校では呼びかけに賛同した多くの学生がピンクのシャツを着て登校。学校中がピンク色に染まり、イジメが自然となくなったそうです。そのエピソードがSNSなどで世界中に広まり、今では70カ国以上でイジメに対する活動が行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が2月第4水曜日でした。それ以降、2月の第4水曜日にはイジメについて考え、イジメられている人々と連帯する思いを表す1日としてピンクのシャツを着る運動が世界中に広がっています。今年の2月第4水曜日は2月24日（水）です。是非、ピンクのシャツや小物身に付けて、皆さまのイジメに対する思いや写真を当サイト（フェイスブック・公益財団法人北海道YMCA）に投稿してください。



いじめの現状

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 小中高における暴力行為の件数 | 56,000 件 |
| 2. 小中高における不登校児童数 | 117,000 名 |
| 3. 高校における不登校数 | 56,000 名 |
| 4. 報告のあった小中高の自殺者数 | 200 名 |

(文部科学省平成24年発表)



Bully は英語で「いじめ」という意味です。

②冬休みスカラシップ報告

北海道内で避難生活を送っている子供たちを応援することを目的に続けている北海道YMCAスカラシッププログラムを継続しています。

今回、冬のスカラシップ募金には、1,253人から135,324円の募金が寄せられ、20名の子供たちが水泳・体操・スキーなどに参加しました。

③札幌市中央消防署より感謝状

1月28日、YMCAにおいて、札幌市中央消防署からの感謝状贈呈式が行われました。

感謝状は、昨年10月にYMCAプールで運動中の男性が心肺停止状態になった際、職員と会員が救急救命活動を行い、人命を救うことが出来たことに対し贈られたもので、中央消防署の池田署長より「敏速な処置で尊い命が救われたことに敬意を表します。」との感謝の言葉を頂きました。男性は病院で意識を取り戻し、現在は退院されて自宅で生活されています。

④ワイズ協賛事業

2月21日（日）サッカーフレンドシップリーグが行われます。時間は9:00-15:30です。

3月6日（日）第16回 Y'S ベル杯水泳発表会が行われます。時間は9:00-13:30です。

水泳発表会終了後、「揚がれ希望の凧」で使う連凧の作成を予定しています。また、両日ともコーヒーサービスが行われます。



2月13日・14日に帯広森の交流館・JICA北海道センター（帯広）で行われる国際フェスタ in とかに北海道YMCAが参加し、ベトナムボランティアワークの旅の紹介、ベトナムグッズ・ビーズキーホルダーの販売を行います。

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のためにYMCAに尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう。
4. 義務を果たしてこそ、
権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席第一、
社会には奉仕第一を旨としよう。